

技術・家庭科技術分野における男女の意識に関する基礎的研究 A Study on Consciousness of Gender in Technology Education

山口 教子*・尾高 広昭**

Kyoko YAMAGUTI and Hiroaki ODAKA

要 約

本研究では、一つの教科でありながら男女が別の学習内容を履修してきた中学校技術・家庭科に焦点をあて、男女共修となった後に技術・家庭科を学習した教員養成学部の男女の学生を対象に学習に関する意識の差異を調査した。

その結果、技術分野は男子が好き、家庭分野は女子が好きという性差の考えはない。男女による性差による問題よりも生徒の興味・関心の実態に応じた基礎・基本を重視した教育が重要である。実習が中心になる教科のため、生徒に最適な教材や題材を選定すること。ものづくり経験の少ない女子生徒の指導は基礎・基本となる工具操作を完全に身につけさせてから題材の製作をさせるべきことがわかった。

1. 緒言

平成元年改訂の学習指導要領より義務教育である中学校技術・家庭科は男女共修となった。改訂前の教育は、男子は技術分野、女子は家庭分野を別々に学習する形態であった。このような変化は女性差別撤廃条約やジェンダー研究^{1),2),3)}など、さらに学校教育へのジェンダー・フリーやジェンダー・バイアスの検討の結果であると考えられる。

本研究では、一つの教科でありながら男女が別の学習内容を履修してきた中学校技術・家庭科に焦点をあてて、男女共修となった後に技術・家庭科を履修した教員養成学部の男女の学生を対象に技術・家庭科の学習に関する意識の差異を明らかにすることを目的とした。

2. 研究方法

中学校技術・家庭科が男女共修となった後に中学校技術・家庭科を履修した教員養成学部の男女の大学生を被験者として、技術・家庭科の学習に関する男女意識の差異を調査した。

- (1) 調査時期 2003年6月初旬から7月中旬まで
- (2) 被験者 G大学教育学部第二学年学生179名(男子学生56名, 女子学生123名)
- (3) 調査内容
 - ① 技術・家庭科の学習に対する印象
 - ② 男女共修の有無
 - ③ 技術・家庭科担当教師の性別
 - ④ 技術・家庭科の技術分野で学習した内容
 - ⑤ 技術・家庭科で好きな学習内容

これらの質問項目は、技術・家庭科を学習した際の意識やそれがどのような背景や影響によるのか、さらにジェンダー・バイアスとなる問題の有無を調査するためである。さらに、教育課程などの違い

* 名古屋市立五反田小学校

** 岐阜大学教育学部

を岐阜県と他府県で比較するために被験者の出身県を調査した。

質問紙の質問事項(資料1)は、教科に対する男女の詳細な意識調査を実施するため、選択式および記述式である。

3. 研究結果

(1) 質問事項に対する集計結果

① 技術・家庭科技術分野の学習に対する印象に関する結果

・ 男子学生の回答結果

| | |
|------|-------|
| 木材加工 | 66.0% |
| 電気 | 23.3% |
| 金属加工 | 12.5% |
| 機械 | 5.4% |
| 情報基礎 | 14.2% |
| 栽培 | 0% |
| その他 | 16.9% |

・ 女子学生の回答結果

| | |
|------|-------|
| 木材加工 | 53.0% |
| 電気 | 23.0% |
| 金属加工 | 4.1% |
| 機械 | 7.3% |
| 情報基礎 | 14.6% |
| 栽培 | 0% |
| その他 | 10.5% |

中学校技術・家庭科の学習による大学生男女の印象を調査した結果、50%以上の男女の大学生がともに第一に木材加工の学習を、第二に電気の学習を挙げていることがわかった。これは被験者が中学生の時、学習指導要領(平成元年改訂)において木材加工と電気の学習内容が必修であったためである。

さらに、平成元年改訂の学習指導要領から新たな学習内容として取り上げられた情報基礎の学習内容は選択であったが、情報化社会の影響や岐阜県での情報教育の推進の要因があり、他の学習内容よりも印象が高い傾向があると考えられる。

② 男女共修の有無の結果

中学校技術・家庭科の男女共修について質問した結果を図1および図2に示す。この結果から、文部科学省の示す男女共修での教育が一部の中学校において実施されていないことがわかった。すなわち、平成元年改訂以前の学習指導要領の中学校技術・家庭科は男子が技術分野の内容、女子が家庭分野の内容の学習という性差による学校教育が続けられていたのである。

この結果は、平成元年改訂以前の学習指導要領によって教育を受けた社会人編入学の学生の影響があるが、それ以外で男女別学の教育を受けた学生が存在することがわかった。この要因として、学校の施設・設備や教育方針、教師の力量や小規模校における免許外教師などが考えられる。しかし、男女共修の通達後に男女別の教育(男子向き・女子向き)を実施した中学校が存在することは、中学生の生徒に対してジェンダー・バイアスを生じさせる原因になるため、今後特に注意すべき点である。

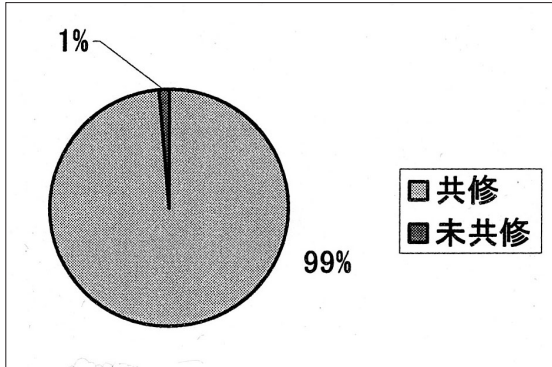


図1 技術・家庭科の履修
(岐阜県出身の学生)

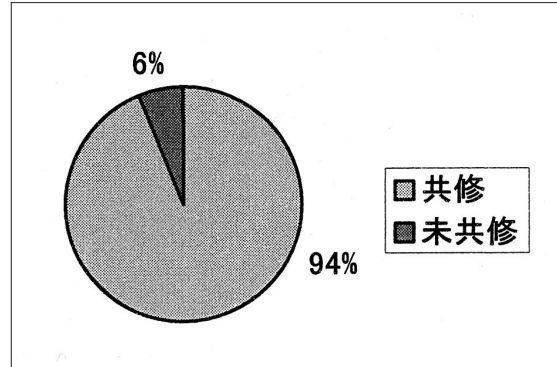


図2 技術・家庭科の履修
(他の都道府県出身の学生)

③ 技術・家庭科技術分野の担当教師の性別の結果

中学校技術・家庭科技術分野を担当する教師の性別を質問した結果を図3および図4に示す。なお、図3は岐阜県の担当教師の性別を、図4は他の都道府県の担当教師の性別を集計した結果である。

この結果から、技術分野を担当する教師は男子教師が91%以上であり男子教師が多いことがわかった。しかしながら、岐阜県(図3)は他の都道府県(図4)と比較して女子教師が若干多いことがわかった。

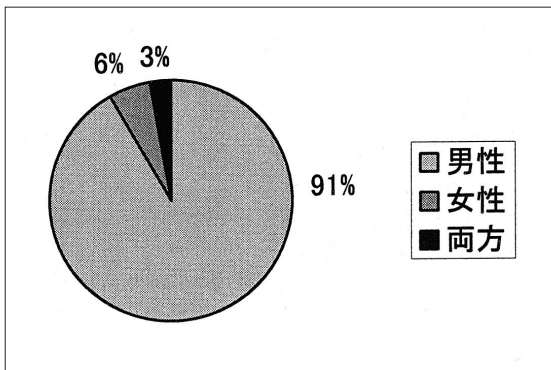


図3 技術・家庭科技術分野の担当教師の性別
(岐阜県出身の学生)

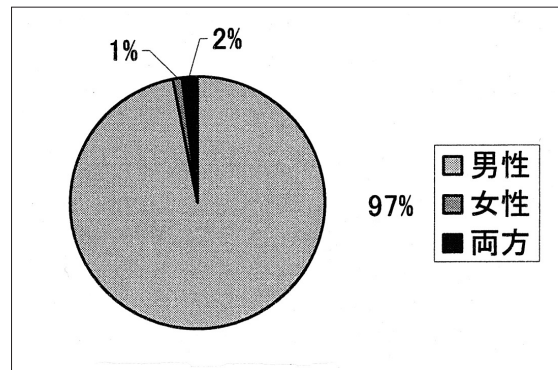


図4 技術・家庭科技術分野の担当教師の性別
(他の都道府県出身の学生)

④ 技術・家庭科の技術分野で学習した内容の結果

被験者に対して中学校技術・家庭科技術分野で学習した内容に関して質問紙調査した結果を図5に示す。

さらに、中学校技術・家庭科技術分野の学習で作った製作品について質問したところ、以下のような回答結果が得られた。

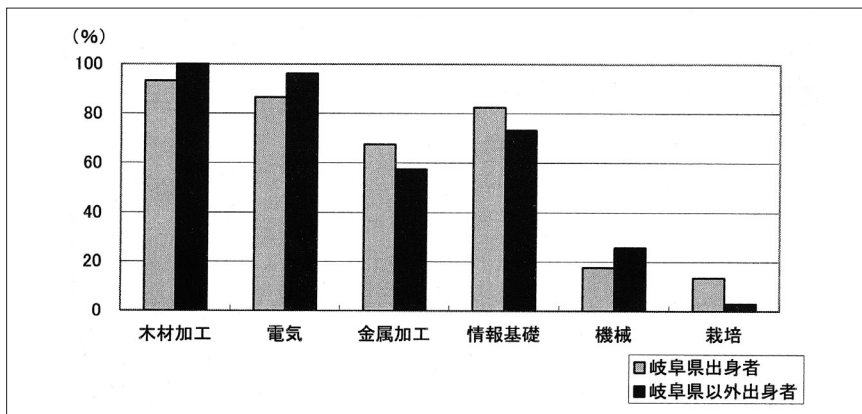


図5 技術・家庭科技術分野で学習した内容

・ 岐阜県出身者の被験者の回答結果 (同学年で複数製作のため重複回答あり)

| | |
|---------|-------|
| 本立て, 本棚 | 84.6% |
| はんだごて | 20.5% |
| 延長コード | 21.6% |
| 蛍光灯 | 23.4% |

・ 岐阜県以外出身者の被験者の回答結果 (同学年で複数製作のため重複回答あり)

| | |
|---------|-------|
| 本立て, 本棚 | 89.3% |
| はんだごて | 7.1% |
| 延長コード | 19.4% |
| 蛍光灯 | 23.5% |

以上の結果から、技術・家庭科技術分野の学習で作った製作品は本立てや本棚が多いことがわかった。さらに、電気の学習内容であるはんだごて、延長コード、蛍光灯などの製作が多かった。前の質問結果で述べたが、この結果は中学生時の学習指導要領必修の学習内容が、木材加工と電気であったことによるものである (現在の学習指導要領 (平成10年改訂) では「技術とものづくり」と「情報とコンピュータ」の内容となった)。

⑤ 技術・家庭科の学習内容で好きな内容の調査の結果

中学校技術・家庭科の歴史的な変遷や特質を考慮して、技術・家庭科の技術分野と家庭分野のどちらの学習内容が好きでしたかと質問した男子学生の結果を図6、図7に、女子学生の結果を図8、図9に示す。

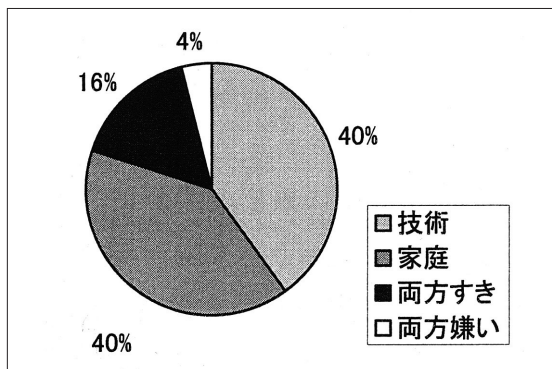


図6 技術・家庭科の好きな分野 (岐阜県出身の男子)

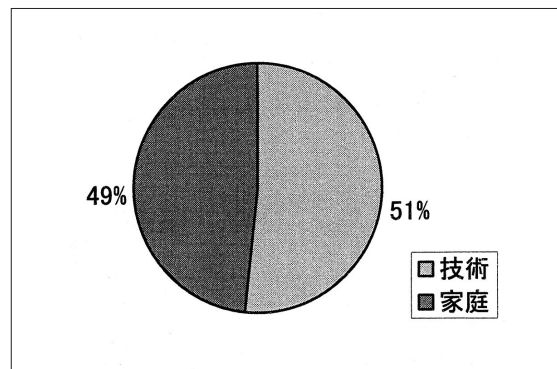


図7 技術・家庭科の好きな分野 (他の都道府県出身の男子)

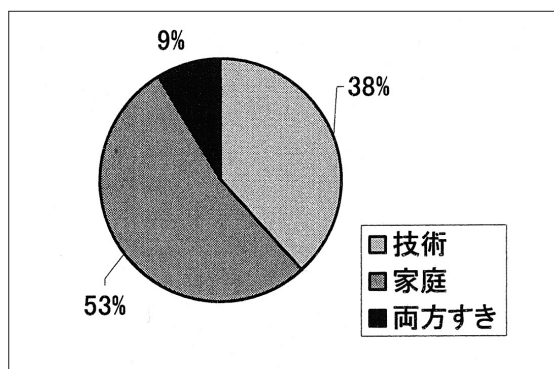


図8 技術・家庭科の好きな分野 (岐阜県出身の女子)

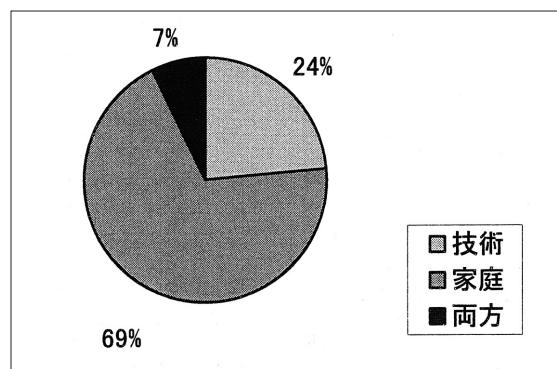


図9 技術・家庭科の好きな分野 (他の都道府県出身の女子)

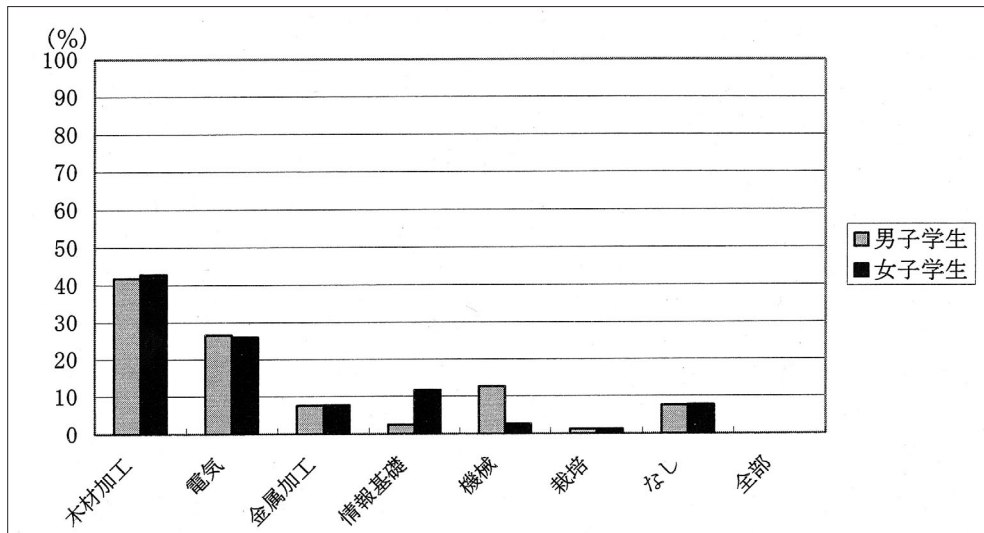


図10 技術・家庭科技術分野の学習で好きな内容（岐阜県出身の学生）

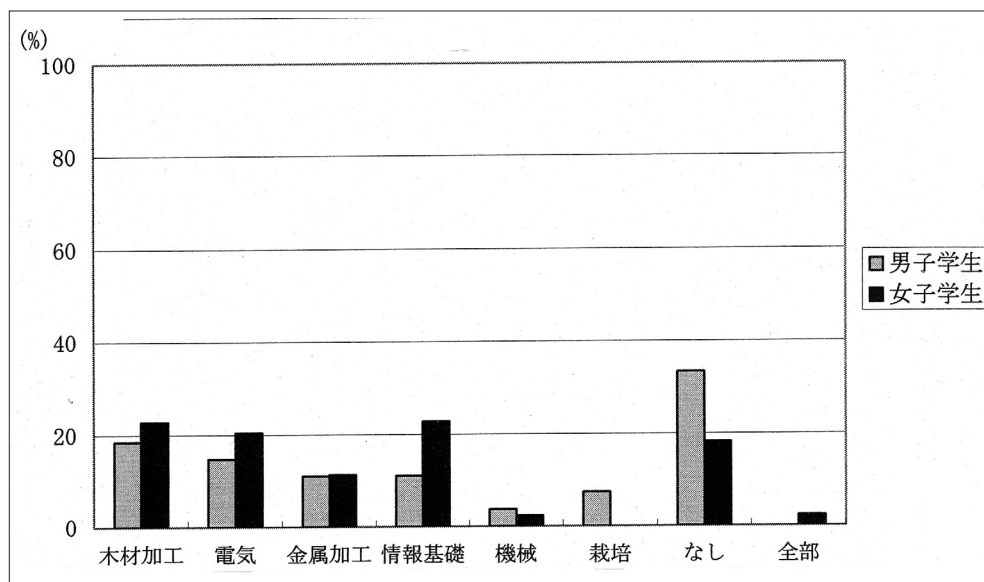


図11 技術・家庭科技術分野の学習で嫌いな内容（岐阜県出身の学生）

実態調査の結果から、男子学生は技術分野と家庭分野をおおよそ半分ずつ好んでいることがわかった。女子学生に関しては、家庭分野を好む被験者が50%以上いるが、岐阜県出身者の被験者は技術分野と両方が好きの女子学生が47%いることがわかった。これらから、現行の学習指導要領や学校教育が男女の性差を意識しない方向であり学習者に好意的に受けとめられていることがわかった。反面、平成元年改訂学習指導要領以前の技術分野は男子向き、家庭分野は女子向きの性差の教育が学習者の要望に即さないことがわかった。

さらに、技術・家庭科の好き、嫌いの理由を記述式で質問した結果、被験者の男女大学生の性差による差異はみられなかった（図10、図11）。男女の大学生ともに、技術分野が好きな理由はものづくりが楽しいからやパソコン操作が好きだからが主な理由であり、家庭分野が好きな理由は調理実習や生活に役立つからが主な理由であった。しかし、女子学生の回答には技術分野は工具が上手に使えるいから、家庭分野が好きであるという記述回答が30.2%あった。このような記述は、女子学生だけの回答であり、女子は技術分野の学習内容に何らかのジェンダー・バイアスを感じていると推察できる。この要因の追求は義務教育の教育問題として大きな課題である。

4. 結論

- (1) 中学校技術・家庭科を学習した男女の大学生を対象にした意識調査の結果、技術分野は男子が好き、家庭分野は女子が好きという性差の考えはないことがわかった。すなわち、男女による性差の問題ではなく個人による興味・関心によるものであることが考えられる。
- (2) 男子学生は理論的な思考を好む傾向が回答の記述よりみられ、電気や情報基礎の内容に興味を示す。
- (3) 女子学生は生活への役立ち、製作の過程や目的、理解を非常に意識しているため、それらへの理解によって作業意識が高まる。
- (4) 男女による性差による問題よりも生徒の興味・関心の実態に応じた基礎・基本を重視した教育が重要である。
- (5) 実習が中心になる教科のため、生徒に最適な教材や題材を選定すること。
- (6) ものづくり経験の少ない女子生徒の指導は基礎・基本となる工具操作を完全に身につけさせてから題材の製作をさせるべきである。

5. 参考文献

- 1) 技術科教育実践講座刊行会：技術科教育実践講座第14巻 技術科教育の歴史と展望，ニチブン，pp.7-62, (1990).
- 2) 上野千鶴子他：ジェンダーがわかる，朝日新聞社，pp.4-9, (2002).
- 3) 木村涼子：学校文化とジェンダー，勁草書房，(2000).

技術・家庭科の意識に関するアンケート

男・女 年齢 () 出身地 ()

現在、卒業研究において技術・家庭科におけるジェンダー・バイアス（社会的・文化的に作りあげられた性差別）について調査し、ジェンダーフリーな（性別にとらわれない考え）技術教育の指導及び教材について研究しています。

このアンケートは卒業研究のために技術・家庭科に対する男女の意識の違いを調査するものであり、成績には一切関係ありません。またこの結果は卒業研究の資料以外には使用しませんので、口外いたしません。ご協力お願いいたします。

次の質問に答えて下さい。

- 1 あなたの技術に対するイメージを教えてください。（例：のこぎりびきなど）
- 2 あなたが中学生の時、技術・家庭科は男女共修でしたか？ はい いいえ
- 3 技術の先生は男性でしたか？女性でしたか？ 男性 女性
- 4 技術と家庭科のどちらが好きでしたか？ 技術 家庭
その理由
- 5 技術で行われていた授業について
 - (1) あなたが受けた授業の内容について当てはまるものすべてに○印をつけて下さい。
木材加工 電気 金属加工 情報基礎 機械 栽培 その他 ()
 - (2) 授業で作ったものは何でしたか？（例．本立て，蛍光灯など）
 - (3) 技術の授業で、興味のある領域は何でしたか？当てはまるものを(1)より選んで下さい。
_____領域
選んだ理由
 - (4) 反対にこの領域は嫌いだ、苦手だという領域はありましたか？(1)より選んで下さい。
_____領域
選んだ理由

ご協力ありがとうございました。 技術教育講座

資料1 意識調査の質問紙